

## 新潟県教員等育成指標の活用状況【上越教育大学】

### 1 取組

上越教育大学では平成20年に、全国の教育系大学でいち早く「上越教育大学スタンダード」を定め、卒業時の大学生が身に付けておくべき姿を明らかにしようという取組を行いました。また、スタンダードに基づいて「教育実習ルーブリック」も作成し、実践的な教員養成カリキュラムを展開しています。これらのスタンダード、ルーブリックも10年を経過したため、現在改定作業を行なっているところです。

本学では「子供達が身に付けるべき21世紀を生き抜くための能力」とその能力を身に付けさせるための教師力を含め「21世紀を生き抜くための能力+@」を標榜し、それに基づくカリキュラムの体系化をしてきました。この「21世紀を生き抜くための能力+@」が達成されるべく新・上越教育大学スタンダードを構築しようとしているところです。また、このスタンダードに付随する「教育実習ルーブリック」も新潟県や新潟市が作成した育成指標を参考にしながら改定を進めています。実習で身に付けるべき力と卒業学年での教職実践演習の授業で身につける力が養成段階としての最終的な学生の姿になります。

### 2 課題

教育実習ルーブリックは、実践的な場面における教科の指導力について実習を通して学ぶことが主眼です。そのため、教科指導が中心になりどうしても生徒指導的な実践力を身に付ける場面が少なくなってしまう（別紙資料参照）。そこで、実習前に学校現場で子供達を支援する「学校ボランティア」の授業を2年次の必修で行っています。また、4年次には、「教職実践演習」で「朝の活動で子供達に何を話すか」「遠足の時には子供達にどう指導するか」など具体的な学校教育活動の場面を想定し演習を行っています。

このような授業を通して養成段階では即戦力となるような教員養成カリキュラムを作成しています。そのため本学学生たちは1年生から系統的に実践力を高めるカリキュラムで養成されるため採用段階や初任者段階で即戦力になりうると思います。しかし実習が多いために大学時代に自主的で幅広い教養を身に付けるような自由な活動の時間が狭まっているのではないかと懸念もあります。リベラル・アーツ的なカリキュラムが教員採用後の伸び代になると考えられますので、そのためのカリキュラムも取り入れていくことが今後の課題と考えています。